

農家と酒造会社の両方に メリット ー所得向上に期待!ー

生物資源研究センター

短稈多収の酒造好適米品種「祝2号」を生生物資源研究センターが育成。今年から府内で本格的に生産が始まる。京都府独自の清酒原料米としてこれまで栽培されてきた「祝」は、大粒で心白の入りが高く、府内の酒造会社から高い評価を得ていたが、長稈で倒伏しやすく収量が少ないうえに栽培面での課題や、精米時に割れやすく

値を得ていたが、長稈で倒伏しやすく収量が少ないなど栽培面での課題や、精米時に割れやすく



酒造工程で取り扱いが難しいことが弱点となっていた。そこで、生物資源研究センターでは2013年から新品種の育成に取り組み、完成した「祝2号」を22年に品種登録した。

「祝2号」は、今年から府内で本格的に生産が始まり、初年度は1250畝の栽培が計画されている。来春には新品種で仕込んだ清酒が消費者のもとに届く予定だ。

「祝2号」は、今年から府内で本格的に生産が始まり、初年度は1250畝の栽培が計画されている。来春には新品種で仕込んだ清酒が消費者のもとに届く予定だ。

訪問・聴き取り調査で 市内16地区の現況地図を作成

木津川市農業委員会

木津川市農業委員会では、昨秋から地区連絡会議(地区連)を定期的に開催し、地域計画の策定に向けた取り組みを進めている。今月までに市内全地区(16地区)で、「地域農業の現状・課題・将来の在り方」「農業上の利用を行う農用地の区域」などの項目について、農家アンケート結果と農業委員・農地利用最適化推進委員の意見を反

映した素案を作成。農地所有者の戸別訪問や聴き取り調査など、「耕作者の現況地図」を作成した。4月からは、市内の認定新規就農者(経営体)など担い手の意向を反映した目標地図作成に取り組み予定で、3月25日の地区連では来年度の具体的な進め方について協議することとしている。(木津川市農業委員会)

きょうと女性農業委員・推進委員の会 元小学校での食育活動、川端委員(京田辺市)が女性委員登用促進シンポジウム参加、福井委員(綾部市)が「うめ梅まつり」出店、今中委員(宮津市)が若手農業者の集いや地域の話し合いについて報告し、意見交換を行った。

3月上旬に開催された各農業委員会の定例総会では、参加した委員から研修会の報告が行われ、各委員会でも共有された。

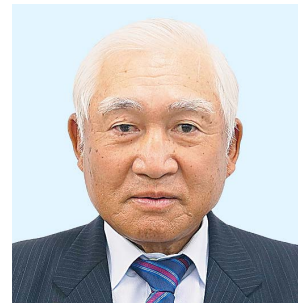
「女性委員研修交流会」を開催



中丹ブロックの発表(総会でのタフレット活用や地域計画の取り組み)を熱心にメモする参加者(2月27日)

新会長の抱負

木津川市農業委員会
尾崎 吉博会長(69)



木津川市には、小区域不整形で農地効率が悪い農地が多く存在する。農業者の所得確保のためにも効率化は必須であり急務だ。そのために「地域計画」を策定し、守るべき農地を明確にした上で、ほ場整備やスマート農業の推進などによる農業の効率化を図り、農業の所得向上や担い手確保につながる取り組みを進めたい。

府立農芸高校生が「ため池の設計」に挑戦

現場で学ぶ「ふるさと未来塾」

高校生が実際の工事現場で「ため池設計」に挑戦する「ふるさと未来塾」が2月20日に開催され、府立農芸高校(農業)が地域振興局と内外エ

ニアリング(株)(京都市)が農芸高校に協力。南丹市八木町にある奥池の工事設計を生徒に体験してもらった。

生徒らは、昨年12月6日に奥池を見学して、現場のイメージを頭にインストールしてから、今回の設計体

設計技師からCAD操作を学ぶ農芸高校生

農deきらきら

宮津市 吉田 悟さん



ネギを収穫する吉田さん

宮津市日置地域で特産のヒレモンやブルーベリーなど果オウギ、水稲、花き、露地野菜など2・3畝の複合経営に取組む吉田悟さん(44)。今年2月、京都府の指導農業者として約40年前から日置地域の農家が共同で出荷している。「花きの面積を増やし、

花き・野菜・水稲の複合経営を拡大!



海印寺ふれあい市で野菜を販売する高橋委員(3月6日)

珍しい野菜に挑戦、朝市で魅力を紹介

「たくさんの方に農業に興味を持ってほしい」という想いから、乙訓のツ、コルラビなどの珍しい野菜の栽培に挑戦し、失敗と試行錯誤を繰り返しながら、少しずつ安定した生産ができるようになった。

近隣の消費者への直売がメインなので、販売時にイラストでお薦めの調理法を紹介するポップを作成し、珍しい野菜を身近に感じてもらう工夫をしています。都市化や担い手不足など地域農業が抱える課題の解決に向けて、地元野菜を身近に感じてもらう取り組みから、農業に対する理解を広げていきたいです。(長岡京市農業委員会・高橋満子委員)



女性委員が「つないで発信」